

September 22, 2022

【前日の為替概況】FOMC0.75%利上げでドル高 対円 144.70 円、対ユーロ 0.9814ドル

21日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは続落。終値は0.9837ドルと前営業日NY終値(0.9971ドル)と比べて0.0134ドル程度のユーロ安水準だった。「プーチン露大統領は軍の部分動員令に署名した」と伝わると、ウクライナ情勢の一段の悪化が懸念されて、経済・地理的に影響の大きい欧州通貨に売りが先行した。

注目の米連邦公開市場委員会(FOMC)では3会合連続となる0.75%の大幅利上げが実施され、同時に公表された政策金利見通し(ドット・チャート)は2022年末で4.4%、23年末で4.6%と前回6月時点(22年末3.4%、23年末3.8%)から大幅に引き上げられた。市場では「ドット・チャートでは予想より高いターミナルレート(利上げの最終地点)と24年まで利下げが想定されていないことが示された。想定以上にタカ派的な内容だった」との声が聞かれ、米10年債利回りが一時3.6243%前後と11年2月以来の高水準を記録。全般ドル買いが優勢となり、一時0.9814ドルと02年10月以来約20年ぶりの安値を更新した。

なお、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が定例記者会見で「今後の利上げペースは経済データ次第」「いつか利上げペースを落とすのが適切になるだろう」などと発言すると、米10年債利回りが3.49%台まで低下。ユーロドルにも買い戻しが入り0.9910ドル付近まで下げ渋る場面もあったが、戻りは限定的だった。

ドル円は3日続伸。終値は144.06円と前営業日NY終値(143.75円)と比べて31銭程度のドル高水準だった。米金融政策の影響を受けやすい米2年債利回りが急伸し、4%を突破すると全般ドル買いが先行。FOMCが0.75%の利上げを決め、インフレ抑制に向け今後も大幅利上げを継続する方針を示すとドル買いが加速した。3時過ぎには一時144.70円まで上値を伸ばした。

ただ、7日に付けた約24年ぶりの高値144.99円には届かなかった。パウエルFRB議長の会見を受けて米長期金利が低下に転じると、全般ドル買いの勢いが後退し、ドル円も143.41円付近まで下押しした。

主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時111.58と02年6月以来の高値を付けたあと110.61付近まで上げ幅を縮めた。

ユーロ円は続落。終値は141.79円と前営業日NY終値(143.34円)と比べて1円55銭程度のユーロ安水準。欧州市場ではウクライナ情勢激化への懸念からリスク回避の売りが優勢となった。NY市場に入るとユーロドルの下落につれた売りが出て一時141.64円と日通し安値を更新した。FRBが今後も大幅利上げを継続する方針を示したことで、ダウ平均が520ドル超急落したことも相場の重しとなった。

【本日の東京為替見通し】日銀金融政策決定会合でのフォワードガイダンス変更に見極め

本日の東京外国為替市場のドル円は、日銀金融政策決定会合でのフォワードガイダンスの変更を見極める展開が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、トリプル・トップ(144.99円・144.96円・144.70円)を形成しつつある。米連邦公開市場委員会(FOMC)声明を受けて届かなかった145円に向けて、日銀金融政策決定会合の結果を受けて、上抜けることで1998年8月の高値を目指す上昇トレンド再開となるのか、それとも、トリプル・トップを完成させるのかを見極めることになる。

日銀金融政策決定会合では、黒田日銀総裁が8月末のジャクソンホール会議で「賃金と物価が安定的かつ持続可能な形で上昇するまで、持続的な金融緩和を行う以外に選択肢はない」と語ったように、短期政策金利(▲0.1%)および長期金利の誘導水準(ゼロ%程度)の据え置き、連続指値オペの運用継続が予想されている。

リスクシナリオは、円安抑制措置として、イールドカーブコントロール(YCC)の「年限の短期化」とゼロ%を中心に上下0.25%程度としている長期金利の「許容変動幅の拡大」という金融政策正常化が打ち出された場合となる。しかし、昨日も日銀による指し値オペが実施されたことで、可能性は限りなく低くなっている。

また、政策金利のフォワードガイダンスの文言修正の可能性にも要警戒となる。

現在のガイダンスは「当面、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、企業等の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努めるとともに、必要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる。政策金利に

については、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している」というもので、緩和バイアス、あるいは利下げバイアスが付与されている。

9月末が期限の新型コロナ対応金融支援特別オペの終了を控えて、前半の「新型コロナウイルス感染症の影響を注視し・・・」の部分は削除される可能性が高い。注目ポイントは、後半の「必要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる」や「緩和バイアス」が維持されるのか否かとなる。

ユーロドルは、プーチン露大統領のウクライナへの部分動員令とパウエルFRB議長の利上げ路線の継続を受けて、2002年10月以来約20年ぶりの安値を更新している。親ロシア派武装勢力「ルガンスク人民共和国」と「ドネツク人民共和国」、ロシア軍が占領する南部ヘルソン州とザポリージャ州では、23-27日にロシア編入を問う住民投票が実施される。プーチン露大統領の狙いは、住民投票により占領地をロシアに併合し、ロシア領土を防衛するために核兵器を使用する権利を得て、ウクライナが退くか、さもなければ核戦争だ、という最後通牒を突き付けることにあるらしく、ユーロの続落リスクが高まりつつある。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 未定 ☆ 日銀金融政策決定会合（終了後、決定内容発表、予想：当座預金金利▲0.10%で据え置き）
- 15:30 ☆ 黒田東彦日銀総裁、定例記者会見

<海外>

- 07:45 ◎ 8月ニュージーランド（NZ）貿易収支
- 15:45 ◇ 9月仏企業景況感指数（予想：102）
- 16:30 ☆ スイス国立銀行（中央銀行）、政策金利発表（予想：0.50%に引き上げ）
- 17:00 ◎ ノルウェー中銀、政策金利発表（予想：2.25%に引き上げ）
- 17:30 ◎ 8月香港消費者物価指数（CPI、予想：前年同月比2.0%）
- 20:00 ☆ 英中銀（BOE）、政策金利発表（予想：2.25%に引き上げ）
- 20:00 ☆ 英中銀金融政策委員会（MPC）議事要旨
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表（予想：13.00%で据え置き）
- 21:30 ◎ 4-6月期米経常収支（予想：2606億ドルの赤字）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.8万件／140.0万人）
- 未定 ☆ 南アフリカ準備銀行（SARB）、政策金利発表（予想：6.25%に引き上げ）
- 23:00 ◎ 8月米景気先行指標総合指数（予想：前月比▲0.1%）
- 23:00 ◎ 9月ユーロ圏消費者信頼感指数（速報値、予想：▲25.8）
- 24:00 ◎ テンレイロ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 23日 01:30 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- ウクライナを巡り国連安保理閣僚会合
- 豪州（女王悼む休日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

21日 09:08 アジア開発銀行(ADB)
「2022年の中国経済成長率を+5.0%から+3.3%に下方修正」「2022年のアジア途上国の成長率を+5.2%から+4.3%に下方修正」

21日 11:39 ブロック豪準備銀行(RBA) 総裁補佐
「現状の金利水準は引き締めのめではない」

21日 15:12 プーチン大統領
「西側はロシアを破壊したがっている」
「我々の目的はドンバスを解放すること」
「ドンバスで戦う志願兵に法的地位を与えるよう政府に命じた」
「軍事作戦の目標は変わらない」
「軍事動員は本日から開始」
「部分的軍事動員を命じる」

21日 15:50 ショイグ露国防相
「部分動員令は軍事経験者に適用」
「動員対象は2500万人、30万人程度動員へ」

21日 17:15 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁
「ユーロ圏景気の下振れリスクが高まっている」
「ユーロ圏のインフレ率は依然として高すぎる」
「ECBは金融引き締めを継続する必要がある」

22日 00:15 マクロン仏大統領
「プーチン露大統領による部分的な動員令署名、ロシアをより孤立させるものとなる」

22日 03:02 米連邦公開市場委員会(FOMC)声明
「最近の支出と生産の指標は緩やかな伸びを示している」
「ここ数カ月、雇用は堅調に伸びており、失業率は低いまま」
「インフレ率はパンデミックに関連する需給の不均衡、食料品やエネルギー価格の上昇、より広範な価格圧力を反映し、引き続き高止まりしている」
「ウクライナに対するロシアの戦争は、多大な人的および経済的困難を引き起こしている」
「この戦争と関連する出来事がインフレにさらなる上振れ圧力を生み出しており、世界経済活動の重しとなっている」
「委員会はインフレのリスクを非常に注視している」

「委員会は雇用最大化と長期的な2%のインフレ率の達成を目指す」

「これらの目標を支援するため、委員会はフェデラルファンド(FF)金利の目標誘導レンジを3.00-3.25%に引き上げることを決定し、目標誘導レンジの継続的な引き上げが適切になると予想する」

「さらに、5月に公表された『FRBのバランスシート規模縮小計画』で説明している通り、委員会は保有する米国債およびエージェンシーローン担保証券の削減を続ける」

「委員会は、インフレ率を2%の目標に戻すことに強く取り組む」

「金融政策の適切な姿勢を評価するに当たり、委員会は今後もたらされる経済見通しに関する情報の意味を引き続き監視する」

「もしも委員会の目標の達成を妨げる可能性があるリスクが生じた場合、委員会は金融政策の姿勢を適切に調整する準備がある」

「委員会の評価は、公衆衛生に関連する情報、労働市場の状況、インフレ圧力、インフレ期待、金融と世界の動向を含む幅広い情報を考慮する」

「今回の金融政策決定は全会一致」

22日 03:34 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「インフレ率を2%の目標に戻すことに強く取り組む」
「FRBには手段があり、価格の安定性を回復することを決意」

「FRBは十分に制限的な水準へ金利を戻していく」

「労働市場はより良いバランスになると予想」

「住宅市場は大幅に鈍化」

「2021年の力強い成長以来、経済は減速」

「成長の鈍化にもかかわらず、労働市場は非常にタイト」

「いつか利上げペースを落とすのが適切になるだろう」

「インフレ率の低下には雇用と成長の鈍化が必要になる可能性」

「今後の利上げペースは経済次第」

「労働市場がある程度鈍化する可能性はかなり高い」

「これまでのところ労働市場の冷え込みの兆しはわずか」

「このプロセスが景気後退(リセッション)につながるかどうかは誰にも分からない」

「いつか利上げペースを落として効果を見極める可能性がある」

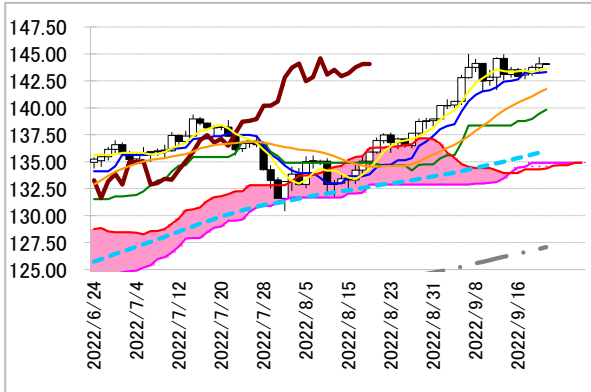
「MBSを近く売却する可能性は検討していない」

「痛みなくインフレを退治する方法はない」

「住宅市場は調整局面を通過する必要があるだろう」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

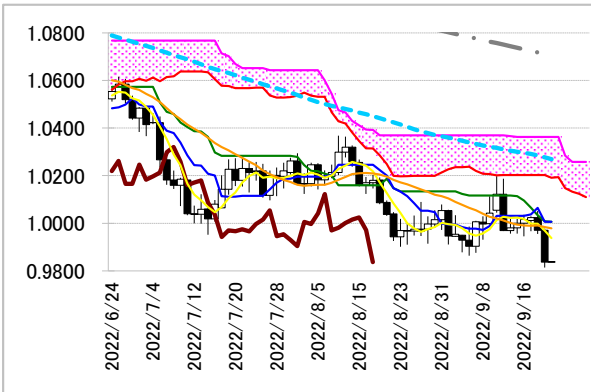


<ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。3手連続陽線で上昇して、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	145.40(1998/8/21 高値)
レジスタンス 1	144.99(9/7 高値)
前日終値	144.06
サポート 1	143.31(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	142.65(9/19 安値)

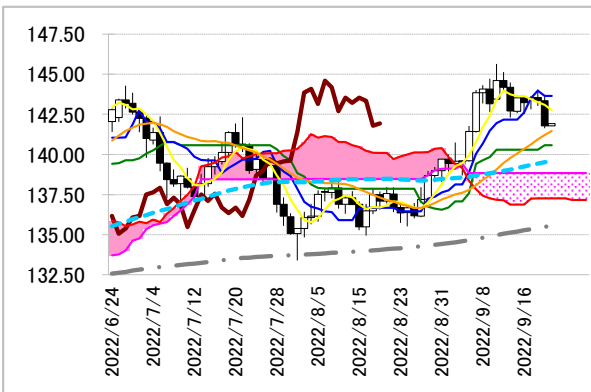


<ユーロドル=9/21 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線と同値、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。2手連続陰線で下落して、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、9月21日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	0.9977(9/21 高値)
前日終値	0.9837
サポート 1	0.9729(2002/10/28 安値)

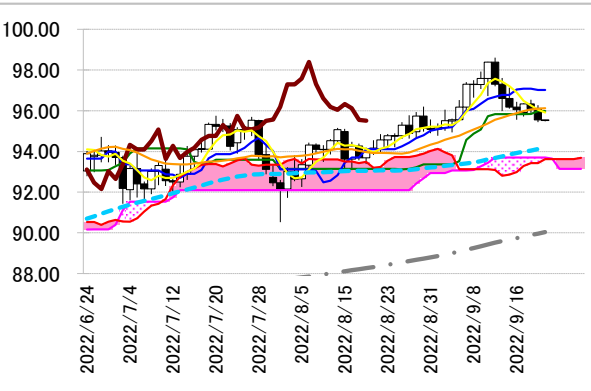


<ユーロ円=9/19 安値を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、4手連続陰線で下落し転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、9月19日の安値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	142.80(9/19 安値)
前日終値	141.79
サポート 1	140.58(日足一目均衡表・基準線)



<豪ドル円=9/21 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、2手連続陰線で下落して転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、9月21日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	96.27(9/21 高値)
前日終値	95.55
サポート 1	93.70(日足一目均衡表・雲の上限)

